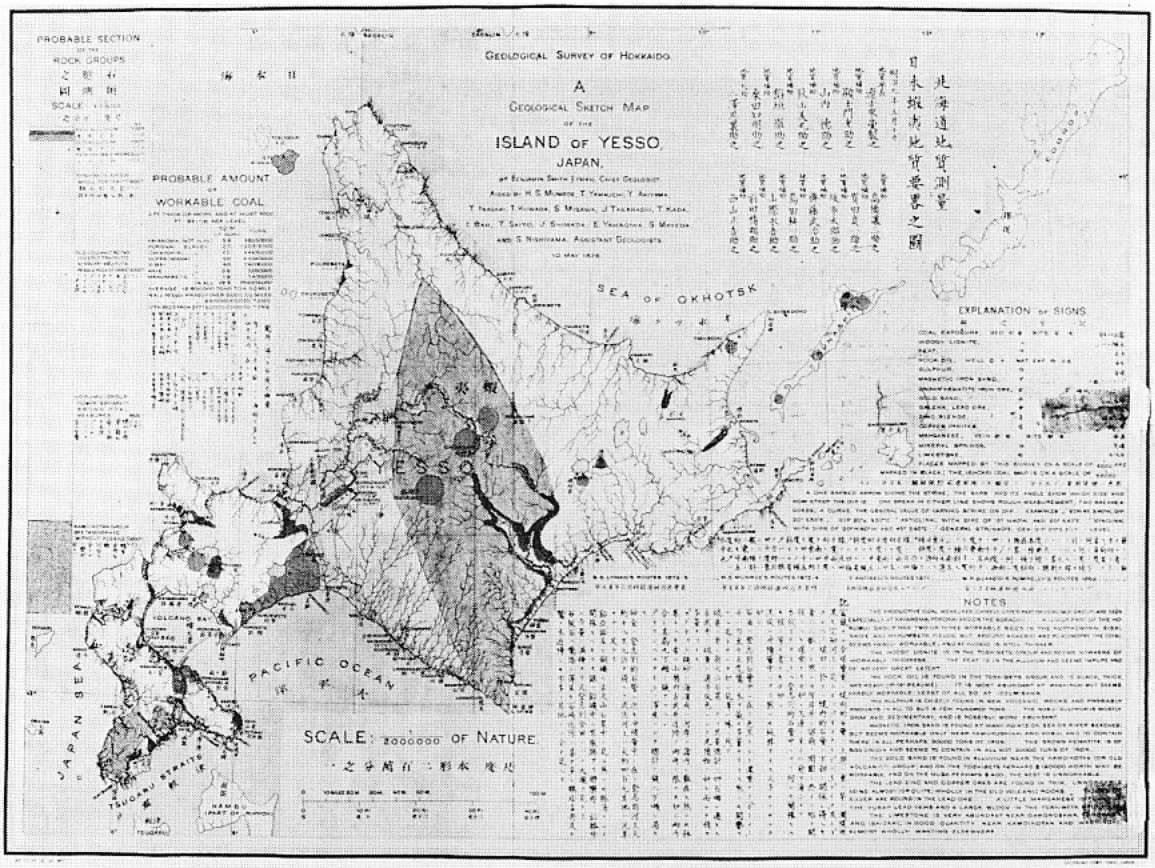
日本最古の広域地質図
「日本蝦夷地質要略之図」

今井　功（地質部）

アメリカの地質学者ライマン（B. S. Lyman）は　北海道開拓使の招きで　助手のマンローとともに明治5年11月に来日した．　そして開拓使仮学校で日本人生徒を教育し　毎年彼らをつれて北海道の主として炭田地域の実地調査を行った．　その結果　各地で良炭層が発見されその連続関係や賦存状態が明らかにされた．　開拓使はこれらの報告にもとづいて　幌内炭山の開発計画をたてた．　ライマンは別に独自で全道の地質調査も行っている．

こうして　明治9年（1876）に200万分の1「日本蝦夷地質要略之図」が作成された．　日本で最初の広域地質図である．　翌年　その説明書ともいうべき“A General Report of the Geology of Yesso”　が完成した．開拓使は明治11年にこれを「北海道地質総論」として刊行している．　ライマンとその弟子たちの努力によって北海道の地質の大勢がここに初めて明らかにされたのである．

当時　工部省の鉱山師長として全国の鉱山を調査していたイギリスのゴドフレー（J. G. H. Godfrey）は　明治13年に日本全土の地質図をイギリスで発表した．　その内容をみると　北海道はライマンの地質図をそのまま引用し　北海道以外の地域にはライマンの層序を適用している．　したがって　筑豊炭田や常磐炭田が幌内層（ライマンの夾炭古第三系）に塗られており　本州中軸部には